



背後にゆとりの森が広がる、
伝承多き小集落



十川② 鍋谷

地名の由来が「然もありなん」

十川地区の中で唯一、四万十川対岸(左岸)にあるのが鍋谷。十川の街中を西へ抜けたところにある十川大橋(赤鉄橋)を渡り切ると集会所があり、その右手(下流)に町営集合住宅と数件の民家がある。反対側(左手)すぐの「ム谷」という小さな谷川に沿って、数件の民家と地区の産土神・河内神社がある。

鍋谷という地名の由来とされる場所がム谷河口にある。ム谷が四万十川に注ぎ込もうとする20mほど手前、集会所前の道のすぐ下に、ム谷の小さな流れが岩のくぼみに流れ落ちている場所がある。このくぼみが鍋に見えることから「鍋谷」という地名になったそうだ。覗いてみると、確かに鍋のような真丸のくぼみである。

小野地区との深いつながり

さて、集会所前の道を東に行くと小野である。隣接する小野地区との境界にまつわる話が残っている。その昔(時代は不明)小野・鍋谷の両村で境界をどこにするかを話し合い「同時に両村から互いに牛を引いて出発し、出会った所を境としよう!」ということになった。そうして集落境が決まったのだが、少し鍋谷寄りであったことから「小野からは馬で来たのかもしれないなあ」という笑い話が残っているらしい。境界はあるものの、昔も今も鍋谷の人が小野の農地を耕作していたり、鍋谷に小野の飛地があったりと、小野地区とのつながりは深い。

たくさんの伝承が残る「わら淵」

かつては沈下橋が鍋谷と十川の街を結んでいたが、大橋

(赤鉄橋)建設に伴い撤去された。大橋に立って下流方向に目をやると、いくつかの岩場や淵がある。その中で、約700m先にある大きな淵を「わろう(わら)淵」という。左(鍋谷)側にまとまった岩場があり、鍋谷の方に聞くと「岩場も含めてこの一帯をわら淵と呼ぶ」と教えてくれた。この岩場の一角に、巨岩の下にできた空洞がある。「子どもの頃、川で遊んでいて雨が降ってくると、ここで雨宿りをしたもんよ。結構広くて5人やそこらは入れた。不思議なことに天井が光っていてね」と前出の方が言う。そして、1km以上離れた十川の茶工場の下辺りと地下で繋がっていて、大蛇が行き来しているのだと伝え聞いていたらしい。この空洞は「蛇釜」と名付けられている。わら淵一帯には大蛇にまつわるものだけでなく、他にもさまざまな言い伝えが残っている。



わろう(わら)淵一帯。

町のうごき

(5月31日)	人	口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,291	-4		男 5	5	10	14
女	7,873	-26		女 0	11	8	23
計	15,164	-30		計 5	16	18	37
世帯数	8,027	-13		(5月中の届出)			

窪川地域 10,810人 大正地域 2,084人 十和地域 2,270人